

～事故を経験して～ 私と交通安全

(北海道) (株)T T. H

高校2年生の秋、私は人生で初めての交通事故にあいました。今までヒヤリとした事は何度かありましたが、まさか本当に自分が事故の被害者になるとは思ってもいませんでした。きっと誰もが「まさか自分が…」そう思うのではないのでしょうか。当時、自転車で通学していた私は寝坊をしてしまい、急いで学校に向かっていました。左側から右側の歩道に渡ろうと、後ろも確認せず斜め横断をしたその時、右側から乗用車が突っ込んできて、私は気づいたら車の後方の地面に座り込んでいました。何が起きたのか、どこが痛いのかもわかりません。車の前輪の下敷きになっている自転車を見て初めて「自分は事故にあったのだ」と気づきました。

車から出てきたのは年配の女性。自分が悪いと感じた私はひたすら謝りました。斜め横断をした挙句イヤホンで音楽を聞いていたので私が100%悪いと思ったのです。相手は私が動けることに安心したのか、私の連絡先を聞いてそのまま立ち去ってしまいました。

冷静な判断ができない中、辛うじてメモした車の4桁のナンバー。事故を目撃していた人が、相手は君が近づいてきてもスピードを落とそうとしなかった。すぐに警察に行きなさい、と言われ近くの交番に行きました。そして現場検証の結果、わかったことは…

- 1、手前にブレーキ痕がないこと
- 2、自転車から体が離れていなかったら自分の体が自転車のようにになっていたこと
- 3、ナンバーの4桁だけでは車両が特定できないこと
- 4、24時間以内に相手から連絡が来ない場合、ひき逃げとして捜索する…とのことでした。

膝を擦りむいた程度の怪我でしたが、念のため病院に行くようにと言われたので病院に行き、特に異状もなく家に帰りました。(次の日むちうちのような症状が出て大変でしたが…)

結局、相手から連絡が来たのは24時間経つ少し前でした。話を聞けば、相手も出勤途中で慌てていたようです。このまま逃げられると思ったそうですが、やはり怖くなり24時間経つ直前に連絡をしたそうです。

私の家族は、『相手は子どもです。子どもが大丈夫だと言っても、見えないところが傷ついているかもしれない。その場で救急車を呼び警察に連絡するのが人として大人としての対応ではないか？』と言ったそうです。

私がこの事故で学んだことは、明日は我が身ということと双方が危機意識を持たないと事故は減らないということです。予期せぬ事故、防ぎようのない事故、起こるべくして起こってしまった事故、事故は無くなることはないでしょう。

運転する側が気をつけることはもちろんのこと、誰もが、「昨日テレビで見た事故が自分にも起こりうる(起こす)こと」という危機意識を持つことで事故は減らせるのではないのでしょうか？事故を起こさない、巻込まれない、起きた場合にする訓練を受けても人間なかなかうまく行動できません。私の事故のように加害者としての義務を果たさず、その場を去った人もいます。私も気が動転して謝ることしかできませんでした。どちらも危機意識が低かったのです。

相手は、きっと私が止まるだろうと思っていたから徐行しなかっただろうし、歩けるから怪我もたいしたことないだろう、だからこのまま逃げ切れるんじゃないか？相手は子どもだと思っていたかもしれません。

しかしその子どもは、遅刻すると思って慌てていて、イヤホンで音楽を聞きながら後方の確認にもせず斜め横断する子だったのです。私といえば、車が避けるだろう、車が出てこないだろう、音楽を聞いていても外の音は聞こえているつもり…だったのです。

自転車を乗る者としてのマナー、危機意識は最悪でした。あれ以来音楽を聞きながらの走行、斜め横断はしません。前後方チェックは車、歩行者がいらないか確認します。それは自分が歩行者の時でもです。当たり前のことですが、何気なくするのと意識してやるのでは何かあった時の反応が違います。

自分があ那时的自転車のようになっていたかもしれないという記憶が、明日は我が身、自分の命は自分で守るという危機意識に繋がっているのだと思います。それでも毎日尊い命が失われます。怒りしか残らないような事故もあります。被害者の無念、残された人たちの涙、加害者の後悔そして末路。私たちはその悲しい出来事から学び、二度と繰り返さないようにどう行動すべきかを1人1人が真剣に考えるべきだと思いました。